

平成22年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859）

指標種としてのスズメ

スズメという鳥は、どこにでもいる鳥というイメージを持たれます。しかし、スズメの生活域は人里が中心で、人の住まない深山や離島ではスズメも生活していないのが普通です。スズメのように人と密接に関わる人類依存型野生生物を、シナントロプ（Synanthrope：人類と共に）と呼ぶことがあります。野生生物は、それぞれ生息に適した環境で生活しますが、ある環境を評価する基準となる生物をその環境の指標種といいます。人と密接に関わる生活をするスズメは、ある地域の都市化、人工化の度合いを判断する指標種となり得ます。

具体的には、ある地域の鳥の個体数を調べ、全ての鳥の個体数に対するスズメの個体数の比率(%)を計算し、比較判断します。このスズメの個体数の比率を、スズメ指数と呼ぶことがあります。スズメ指数＝(スズメ個体数／全個体数)×100(%)。つまり、ある地域に生息する鳥の何%がスズメか、ということです。

2009年1月に、市内の7ヶ所で冬の鳥を調べるセンサス調査(一定の調査方法で、野鳥の種類と個体数を数える調査)を行いました。試みにその結果を元に、各調査地でのスズメ指数を求め、下記の表にまとめてみました。調査場所の概略は以下の通りです。霞川：稻荷橋～金子橋(遊歩道)、友田河原：友田レクリエーション広場～水道橋、小曾木：小布市川(厚沢橋～旧小曾木配水場)、大荷田：大荷田川沿い市道、御岳山：御岳平～岩石園上流、御岳溪谷：楓橋～神路橋、七国峠：笹仁田峠～岩蔵温泉付近。御岳溪谷については、2008年1月の記録を用いました。数字の単位は、全個体数、スズメ個体数が、調査により求められた1時間当たり出現個体数(羽)、種類数は種、スズメ指数が%です。

場所	全個体数(羽)	種類数(種)	スズメ個体数(羽)	スズメ指数(%)
霞川	105.6	21	36.6	34.7
友田河原	76.4	17	6.5	8.5
小曾木	74.9	16	6.4	8.6
大荷田	67.4	22	1.1	1.6
御岳山	51.2	18	0	0
御岳溪谷	40.4	12	0	0
七国峠	10.7	5	0	0

この表から、鳥の個体数は、市内でも場所により、かなり異なることが解ります。霞川と七国峠では、10 倍近い差があります。これは、霞川沿いが、水辺、畑地、住宅地等、環境の変化に富むのに対し、七国峠は樹齢の若いスギやヒノキの人工林が多い尾根筋のためだと思われます。しかし、スズメ指数は霞川の方が高く、より人工化の進んだ場所ということになります。御岳山の山上には、人為度の高い集落があるのですが、スズメのいる山麓部と森林で隔絶されているためか、スズメはごく稀にしか確認できません。スズメ指数だけでは、人工化を判断できない場所といえます。市内でも、スズメ指数は場所により大きな違いがあり、スズメの存在や個体数は、その場所がどのような環境なのかを考えるヒントを与えてくれます。

(文責 櫻岡 幸治)